

第3世代を芽かき

早生樹・コウヨウザン

早生樹・コウヨウザン試験地は、四万十森林管理署管内（辛川山国有林）に設定しています。

（本誌69号等参照）

これまでの施業経過、

第1世代は、昭和8年3月に植栽し、56年後の昭和63年8月に伐採・搬出。その後、ぼう芽更新した第2世代を29年後の平成30年2月に間伐。

間伐後、1年を経過した平成31年2月に、第3世代の芽かきを行いました。

（写真上 芽かき前・下 芽かき後の状況）

2日間にわたり、11株の芽かきを実施しましたが、伐根の径級により、ぼう芽生長の良いもの（1〜4本）を残して、仕立てるように心がけました。

2回目のぼう芽更新により、第3世代に入りませんが、ぼう芽の本数は、伐根毎に異なり47本から557本までと、ぼう芽力の旺盛さを確認しました。

帰局後、芽かきしたぼう芽枝の本数・根元径・樹高を調査し、その後、さし木苗として活用するため、局と協定を締結している岡宗農園（安芸市）で育苗しています。



ふおっと (photo) ひといき



天狗峠より三嶺を望む

新企画：職員が、出張時に撮影した写真を
随時掲載します。 乞うご期待！

編集後記

先日、あるお寺の掲示板に、
「これから通る 今日の道 新しい道
通りなおしのできぬ道」と。
3月も一日一日を大切に。

知っ得 豆知識

「ヒキガエル」って



小さな池でも数十匹、大きな池では数百匹のヒキガエル（写真）が集まる光景はさまざま、昔から「カエル合戦」とか、「ガマ合戦」などと呼ばれている。

さて、電話やテレビなどの連絡手段を持たないカエルたちは、いったい何を合図に池に集まるのか。これまで何回かのカエル合戦が始まった日と地中の温度（カエルは土の中で冬眠）の関係を見ると、地中の最低温度が6度以上になるとカエルは冬眠から目を覚ます。つまり、土の中の温度が全員集合の合図だった。

ところで、ヒキガエルは、普段は池などとは全く関係のない家のまわりや林の中で生活している。

よく庭などでいつも同じカエルに出会う、実はヒキガエルはだいたい決まった場所、しかもせまい範囲の中で生活していて、マイホームを持っている。

カエルは、たとえ近くに池があっても立ち寄らず、わざわざ遠くの池にいくカエルがいること。カエル合戦が終わると、再びマイホームへ「ひきかえる」ことなどがわかった。

（街の自然観察 矢野亮より）